

第17回 体文協杯

北海道ジュニアラグビー選手権大会

2023. 7.15(Sat)～ 7.16(Sun)

8. 5(Sat) ～ 8. 6(Sun)



主催 一般財団法人北海道体育文化協会
北海道ラグビーフットボール協会札幌支部

会場 北海道立野幌総合運動公園ラグビー場

第17回体文協杯北海道ジュニアラグビー選手権大会

2023/7/15~16、8/5~6

主催： 一般財団法人 北海道体育文化協会

北海道ラグビーフットボール協会札幌支部

主管： 北海道ラグビーフットボール協会札幌支部普及育成委員会

大会コンセプト

1. ラグビー競技の健全な普及・発展
2. タグラグビーやラグビーに対する正しい理解や技術向上
3. 試合を通じて親睦交流を図る
4. 観客、選手、家族、大会関係者すべてが楽しめる大会の実現
5. 子どもたちの心身の健全な育成に寄与する

目次

大会コンセプト・目次	1
ご挨拶	2
大会役員	4
実施要領	5
Let Kids Be Kids	8
グラウンドレイアウト	9
歴代優勝チーム	12
組合せ	13
選手名簿	33
協賛チーム・企業広告	74

一般財団法人 北海道体育文化協会
理事長 三戸部 正行



第17回体文協杯北海道ジュニアラグビー選手権大会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。全道から多数の選手や保護者の皆様、また、大会を支えてくださる関係者の皆様に主催者代表として深く感謝いたします。

この大会は、北海道ラグビーフットボール協会札幌支部とともに、ラグビーの健全な普及・発展を目指し、正しい理解と技術向上を目的に開催されています。参加しているチームは、幼児から中学生まで幅広く、この大会が野幌総合運動公園の夏の一大イベントとして開催できることを大変うれしく思います。今年も札幌近郊はもとより、遠軽、美幌、北見、旭川、帯広、中標津、函館から多くの皆様が足を運んでいただきました。選手数 1,000 名という大規模な大会となりましたが、これもひとえに皆様のご支援ご協力の賜物です。選手の皆さんには、これまでの練習の成果を発揮され、素晴らしい試合が展開されるとともに、大会を通じて一層の交流を深められたら幸いです。

今年9月にラグビーワールドカップフランス大会が開幕し、日本代表が新たな境地のベスト4を目指していることは、さらにラグビーへの情熱が昇華され国内からの注目度もさらに高まることでしょう。選手の皆さんの中から未来の日本ラグビーを戦う選手が現れ、今大会がそのきっかけとなれば非常に素晴らしい出来事だと思います。

最後になりますが、今大会の成功を祈り、全ての選手の皆さんの更なる飛躍と検討を願い、今大会が最高の経験となることを心よりお祈り申し上げます。



一般財団法人 北海道ラグビーフットボール協会
札幌支部理事長 山本 清和

第17回体育文化協会杯北海道ジュニアラグビー選手権大会の開催にあたり、主管する札幌支部を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

北海道各地から1千名を超える選手ならびにチーム関係者、保護者の皆様にご参集いただき、盛大に開催できますことを心から感謝申し上げます。

参加者の増大にともない、昨年からはミニラグビーの部とタグ・ジュニアラグビーの部に日程を分けて開催しておりますが、今年はインターハイの関係でさらに変則的な日程になり、選手や保護者の皆様、大会関係者の皆様にご負担をお掛けしておりますことをご詫言申し上げます。

さて、今年の9月にラグビーワールドカップフランス大会が開催されます。前回の日本大会での日本代表の活躍に影響されて、ラグビーを始めた選手も多いと思います。ミニやジュニア、タグの競技人口が増えることは、競技の裾野を広げ、頂上を押し上げる好循環をもたらせてくれています。フランス大会では、前回以上に日本代表の活躍が期待でき、とても楽しみにしています。また、本大会に出場する選手全員に日本代表になれる可能性が残されています。中学や高校、大学に進学しても、目標を持ってラグビーを続けてくれることを心から願っております。

ところで、昨今小学生のスポーツ大会において様々な問題が発生し、全国大会やトーナメント方式の大会を中止する競技も現れました。過剰な勝利至上主義や指導者のハラスメント、保護者のマナー違反などで、育成期の子どもたちが十分にスポーツを楽しめていないといったことが原因のようです。

本大会においては、「Let Kids Be Kids」(子どもは子どものままでいさせてあげてほしい)を最重要テーマとし、試合中にベンチや観客席からの指示を禁止するなど、子どもたちの主体性や判断力を育むことに努めております。ラグビーを通じて、子どもたちのより良い成長を促してまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりになりますが、大きな怪我や熱中症などに十分に注意し、無事に大会を終えますことをご祈念申し上げ、私の挨拶といたします。

大会役員

【大会役員】

大会長	一般財団法人北海道体育文化協会 理事長	三戸部正行
副大会長	北海道ラグビーフットボール協会札幌支部 理事長	山本 清和
大会委員長	北海道立野幌総合運動公園 所長	小川 泰雅
総務委員長	北海道立野幌総合運動公園 副所長	木谷 琢睦
総務委員	森 一史 菅 卓也 佐々木良憲 福田 圭吾 熊木 勝彦 乗木 裕 星 敏幸 砂原いずみ 上田 勝吾 池 史直 秋本 斉史	
医務委員	白石 秀明 仲澤 順二 諸原 基貴	

【競技役員】

競技委員長	北海道ラグビーフットボール協会札幌支部普及育成委員長	熊木 勝彦
副委員長	北海道ラグビーフットボール協会札幌支部普及育成副委員長	石岡 健一
審判長	北海道ラグビーフットボール協会札幌支部レフリー委員会	菅原 均

出場チーム	北海道バーバリアンズジュニア スピリッツオホーツクジュニア																														
(順不同)	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>函館ラグビースクール</td> <td>小樽ラグビースクール</td> <td>美幌ラグビー少年団</td> </tr> <tr> <td>札幌ラグビースクール</td> <td>帯広ラグビースクール</td> <td>山の手ラグビースクール</td> </tr> <tr> <td>旭川ラグビースクール</td> <td>オホーツクブルーR F C Jr</td> <td>江別ラグビースクール</td> </tr> <tr> <td>遠軽ラグビースクール</td> <td>千歳ラグビースクール</td> <td>函館ラグビークラブ</td> </tr> <tr> <td>中標津ラグビースクール</td> <td>札幌市立屯田中央中学校</td> <td>立命館慶祥中学校</td> </tr> <tr> <td>北嶺中学校</td> <td>札幌市立羊丘中学校</td> <td></td> </tr> <tr> <td>上磯レラモンキーズ</td> <td>豊似リトルサンターズ</td> <td>A d v a n z</td> </tr> <tr> <td>苫小牧アスールブレイブス</td> <td>平岸ストロンガーズ</td> <td>ホワイトストーン</td> </tr> <tr> <td>屯田ウインドブレイクス</td> <td>江別タグ・ベアーズ</td> <td>わくわく COLLEGE</td> </tr> <tr> <td>北海道ハイテク AC アカデミー</td> <td>積丹 TRF229ers</td> <td></td> </tr> </table>	函館ラグビースクール	小樽ラグビースクール	美幌ラグビー少年団	札幌ラグビースクール	帯広ラグビースクール	山の手ラグビースクール	旭川ラグビースクール	オホーツクブルーR F C Jr	江別ラグビースクール	遠軽ラグビースクール	千歳ラグビースクール	函館ラグビークラブ	中標津ラグビースクール	札幌市立屯田中央中学校	立命館慶祥中学校	北嶺中学校	札幌市立羊丘中学校		上磯レラモンキーズ	豊似リトルサンターズ	A d v a n z	苫小牧アスールブレイブス	平岸ストロンガーズ	ホワイトストーン	屯田ウインドブレイクス	江別タグ・ベアーズ	わくわく COLLEGE	北海道ハイテク AC アカデミー	積丹 TRF229ers	
函館ラグビースクール	小樽ラグビースクール	美幌ラグビー少年団																													
札幌ラグビースクール	帯広ラグビースクール	山の手ラグビースクール																													
旭川ラグビースクール	オホーツクブルーR F C Jr	江別ラグビースクール																													
遠軽ラグビースクール	千歳ラグビースクール	函館ラグビークラブ																													
中標津ラグビースクール	札幌市立屯田中央中学校	立命館慶祥中学校																													
北嶺中学校	札幌市立羊丘中学校																														
上磯レラモンキーズ	豊似リトルサンターズ	A d v a n z																													
苫小牧アスールブレイブス	平岸ストロンガーズ	ホワイトストーン																													
屯田ウインドブレイクス	江別タグ・ベアーズ	わくわく COLLEGE																													
北海道ハイテク AC アカデミー	積丹 TRF229ers																														
協賛団体	(株)はやし (株)藤井運道具店 北海道コカ・コーラボトリング(株) 日東石油(株)																														
(順不同)	(有)さぼーと ぬかがが歯科医院 江別清掃(株) 医療法人社団横山医院 (株)ブライアンブルー カンタベリーショップ札幌店 医療法人社団未来 旭川医大ラグビー部OB会 (株)メディカルシステムネットワーク なの花薬局 函館ラグビースクール 旭川ラグビースクール 遠軽ラグビースクール 帯広少年ラグビースクール 札幌少年ラグビースクール 美幌ラグビー少年団 千歳ラグビースクール 江別ラグビースクール 北海道バーバリアンズR S C 山の手ラグビースクール オホーツクブルーR F C J r. 小樽ラグビースクール 函館ラグビークラブ 苫小牧アスールブレイブス 学校法人希望学園北嶺中高等学校 (株)防災コンサルタント (順不同・敬称略)																														

第17回体文協杯北海道ジュニアラグビー選手権大会

実施要領

- 1 目的 大会実施によりラグビー競技の健全な普及・発展とタグラグビーやラグビーフットボールに対する正しい理解や技術向上を図るとともに、子供の心身の健全な育成に寄与することを目的とする。
- 2 主催 一般財団法人北海道体育文化協会
一般財団法人北海道ラグビーフットボール協会札幌支部
- 3 主管 一般財団法人北海道ラグビーフットボール協会 札幌支部普及育成委員会
- 4 期 日
【中学生の部】
2023年7月15日（土） 10時45分（予定）
2023年7月16日（日） 9時開始～14時30分表彰式（予定）

【小学4～6年生タグラグビーの部】
2023年7月16日（日） 9時開始～14時30分表彰式（予定）

【小学生・幼児の部】
2023年8月5日（土） 11時KO（予定）
2023年8月6日（日） 9時開始～14時30分表彰式（予定）
- 5 会 場 野幌総合運動公園ラグビー場 及び 多目的グラウンド（タグラグビー会場）
〒069-0832 江別市西野幌481番地
- 6 競技規則 日本ラグビーフットボール協会 令和4年度改訂版のミニラグビー、ジュニアラグビー、タグラグビーの競技規則による。なお、安全面に考慮し、特別競技規則を定める場合があり、その内容については当日、代表者会議で通知する。
※低学年及び幼児カテゴリーは、タグラグビーを実施する。
- 7 競技方法 タグ・ミニ・ジュニアそれぞれの参加申込みチーム数および選手人数により、後日決定し、タイムスケジュール、事前周知事項と共に連絡する。
- 8 参加資格 (1)2023年4月に小学校及び中学校に在学している生徒。但し、スクール生及び中学校部活動生徒にあっては日本協会の登録規約に準じていること。また、二つのチームにまたがっての出場はできない。
(2)参加選手は、各自もしくは各チームでスポーツ傷害保険に加入していること。
(3)ミニラグビーは小学生で中学年・高学年の別、低学年はタグラグビー、ジュニアラグビーは中学生（U15、U13）の各種別チームとする。
なお、未就学児については参加人数に応じてエキシビジョンマッチを行う。
(4)小学4～6年生タグラグビーの部に、後日開催のミニラグビーに参加予定の選手

及びチームも、参加することができる。(参加料はタグの部として、別途頂戴します。)

(5)参加チームは当該チームを指導掌握し、責任を負うことのできる成人が帯同していること。

(6)大会規定のチーム人数に満たなくても合同チームとして参加することができる。事前にチーム間で合同編成の合意がある場合は、大会申し込み時にその旨を申し出る。その他の場合の合同チーム編成は、主催者側で決定する。

(7)大会当日の欠席やケガ等により、規定競技人数に満たなくなったチームは、オープン参加として、他チームから選手を補充して参加することができる。

(8)同一カテゴリーにおいて、複数チーム出場希望の場合であっても、当該チームの登録選手数や全体の参加チーム数によっては、主催者側で事前連絡の上、単一チーム出場とする場合がある。

(9)ジュニアラグビーのU15の部選手は、原則として中学2年生以上とする。

9 組合せ 参加チームおよび選手人数により、主催者側で決め、周知する。

10 安全対策 ・医務員（医療従事者、セイフティーアシスタント等）を配置する。
・大会中の傷害については、応急の医療処置は主管団体が施すが、事後処理はチーム及び保護者が行うものとし、主管団体は責めを負わない。
・ウォーターブレイクを入れる場合がある。
・メディカル用具は各チーム持参のこと。

11 表彰 種別ごとに優勝、準優勝を表彰する。

12 申し込み 大会参加申込書フォーム（別紙）に所定事項を記入の上、**6月15日(木)**までに下記アドレス宛にメール送付願います。ご不明な点も下記までお願いします。

北海道ラグビーフットボール協会札幌支部普及育成委員会

事務局 菅原 均

携帯 090-4477-8558

E-Mail sugawara.hitoshi@obayashi.co.jp

13 参加料 全てのカテゴリー **1チームにつき1,000円(大会日当日持参のこと)**
(例)1団体でミニまたはジュニアラグビーの全カテゴリーで5チームを参加させる場合は、

1,000円×5チーム=5,000円となる。

※1チームに満たない人数でも上記の参加料とする。

14 その他 (1)タイムスケジュールはじめ、組合せ等はあらかじめ出場チームに連絡します。
(2)宿泊場所の斡旋は致しません。各チームで手配願います。

※野幌合宿所の利用は、先着順となります。(申し込みは直接野幌事務所へ)

(3)お弁当注文は、できるだけ協賛予定会社 ㈱はやし様でご注文ください。

(申込書は後日別途送付します)

(4)指導員の皆様には、多くのお力をお借りすることとなりますが、ご協力の程

よろしくお願い致します。

15 今回大会からの留意事項

- (1)2023年5月5日付日本協会通達「U12 ミニラグビー及びU15 ジュニアラグビー競技規則の一部改正について」を準用します。
- (2)昨年大会まで、各チーム向けのテントを札幌支部で準備を行ってきましたが、機材の運搬と設営撤去に膨大な労力を要してきたことから、将来にわたり本大会が持続していくためにも、今回大会より各チームで必要に応じてテントを準備していただくこととしました。テントのリース斡旋は、大会事務局より別途ご案内させていただきます。各チームで所有しているテントを持ち込むことも可能ですが、ドーム式テント（芝を床布で覆ってしまうもの）やタープはNGといたします。脚で自立するテントのみ設営可能といたします。

以上

「Let kids be kids」

子供たちのより良い成長を促すためにラグビーというスポーツの原点であります「主体性」を重んじる施策を実施しておりますのでご協力よろしくお願い致します。

【対象カテゴリー：高学年・中学生】 ※出来る範囲で中学年もお取り組みください

- ・ゲーム中（ハーフタイムは除く）のベンチ、スタッフ、ウォーターからの指示の禁止
- ・ゲーム中の観客席からの指示の禁止
- ・タッチジャッジの中立性の厳守
- ・グラウンド入場のスタッフ人数の制限 監督・記録係・SA・ウォーター、合計4名まで

Let Kids Be Kids

「ベンチ及び観覧席からの指示の一切の禁止」という施策。ラグビーというスポーツが持つ、キャプテンシーの重要性とゲーム中、選手自身が判断し、プレーするという主体性を育むための取り組みです。今回の第16回体文協大会におきましても、子供たちのより良い成長を促すために、同じ運営を行いたいと思います。

具体的には、

- ①実施するカテゴリーは高学年と中学生とする
但し、中学年でも可能な限りお取り組みください。
- ②エリア内でサポートするスタッフからのゲーム中の指示の禁止
なお、ハーフタイム中はこの限りではありません。
- ③観戦される関係者、保護者からの指示の禁止
素晴らしプレーには敵味方、隔てのない称賛をお願いします。
- ④エリア内に入れる人数制限
サポートスタッフは4名までとします（監督、記録係、ウォーター、SA）
リザーブ選手以外のエリア入場を禁止します。
- ⑤決められたエリア内でのサポートと応援 ※別紙グラウンド図参照
ゲーム中、スタッフ、選手は置かれたマーカー内に留まってください。
関係者、保護者のグラウンド内での応援は禁止します。
- ⑥タッチジャッジの中立性の厳守
タッチジャッジからはルール・安全に関する指示以外行わないでください。
ハーフタイムではベンチに戻らず、レフリーとグラウンドで待機してください。

以上の施策に反する行為について、特に罰則は設けませんが、目に余る行為があった場合は大会実施要項に基づき、退場していただくことがあります。

タッチライン際の大人たちへ



ラグビーは試合になれば選手がすべてを判断してプレーするスポーツです。だからこそ、教育的価値が高いと認められているのです。

コーチの仕事は選手が自分達で判断してプレーできるように育て、導くこと。親や観戦者はそれを温かく見守る。それがラグビーです。

近年、ラグビー王国ニュージーランドですら、子どもたちの試合での野次や罵声が問題になっています。現状を憂い、「Let Kids Be Kids」というキャンペーンが行われています。子どもは子どもでいさせてあげてほしい。ミスを叱り、レフリーに文句を言うのではなく、その奮闘をサポートし、楽しい思い出を残してあげてほしい。そんな願いが込められています。

子どもたちはボールを持って走り、パスし、タックルすることが楽しくて仕方がないのです。仲間と協力して戦い、試合が終われば相手チームと友達になる。それは美しい思い出になります。その記憶の中に、ひどい言葉を刻みつけないでください。子どもたちは大人の態度を見えています。子どもたちの自主性を重んじ、レフリー、相手チーム、両チームのサポーター、すべてをリスペクトしながら、子どもたちをサポートしてください。

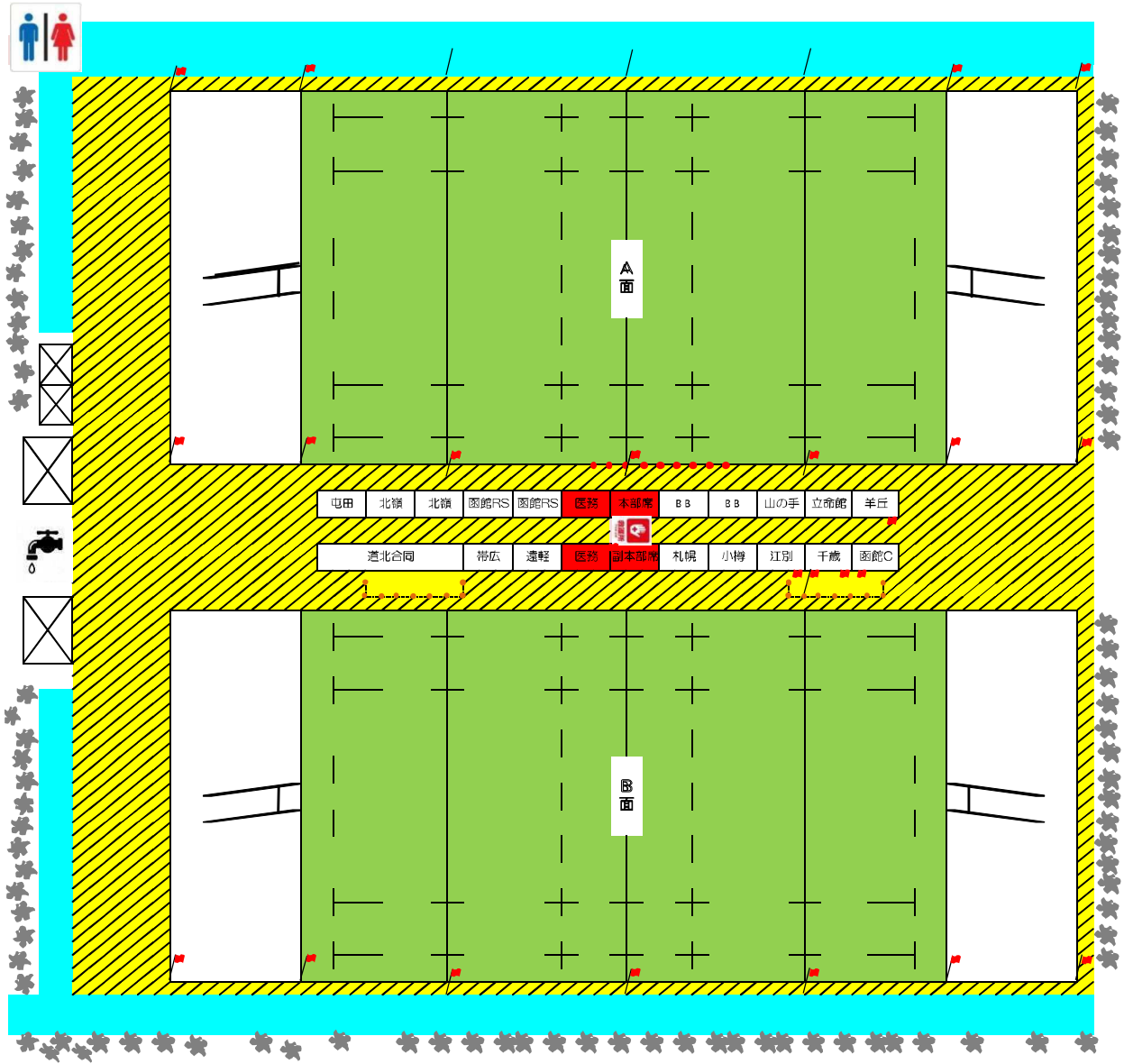
それがラグビー精神なのですから。

ラグビージャーナリスト 村上 晃一 氏

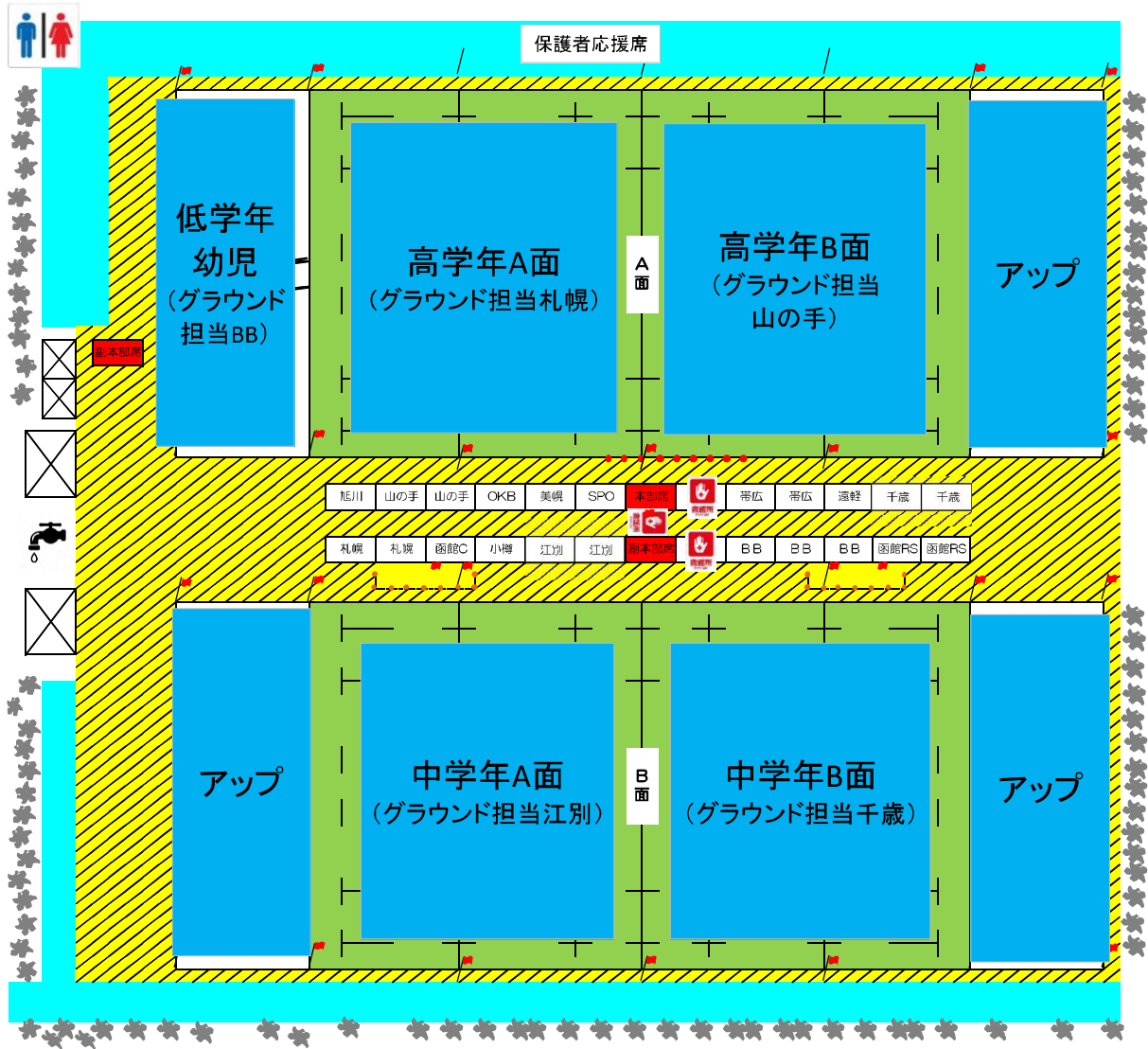
保護者応援席



2023体文協杯 ジュニアの部



2023体文協杯 小学生の部 (8月5日、6日)
グラウンドレイアウト

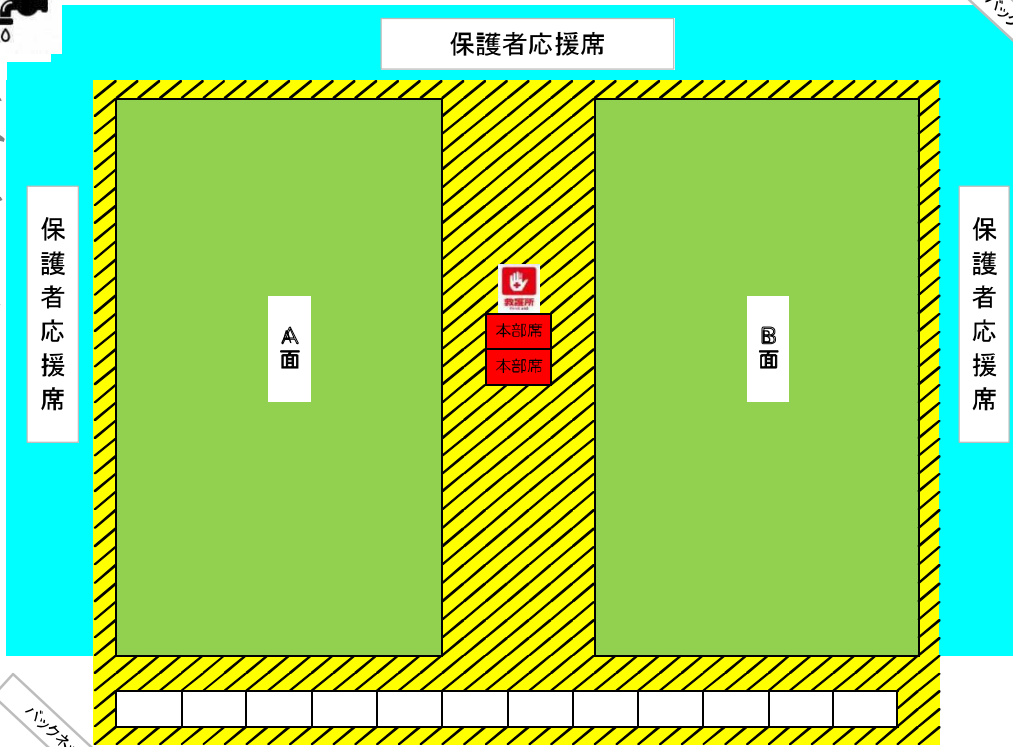


2023体文協杯 タグの部(7月16日)

↑ラグビー場方面



保護者応援席



祝 第17回北海道ジュニアラグビー選手権大会



道産子ジュニアラガーを応援しています
旭川医科大学ラグビー部・同OB会

